NO.3　香港のスーパーマーケット事情　~日本産品にあふれた市場～（令和３年１月 26 日）

香港政府の発表によると、2020 年 11 月の香港での小売業の総売上高は前年同月比４．０％減の 287 億 HK ドル（約 3,810 億円、暫定値）だった。デモやコロナの影響もあり 22 か月連続のマイナスとなった。

一方で、スーパーマーケットの売上高は前年同月比１．６％増、2020 年１月期以来 11 か月連続のプラス、対前年１~11 月累計の増減率でも９．５％増であり、長引くコロナ関係の規制による香港市民の巣ごもり消費の拡大によるものと考えられる。

今回は、売り上げが堅調であるスーパーマーケットについてレポートする。

香港のスーパーは、大手の「Dairy Farm Group（デーリー・ファーム・グループ）」と「A.S.Watosons Group（ワトソンズ・グループ）」の２社で店舗数の約 73%を占めている。

それぞれ、大衆向けとして、「ウェルカム」(約 270 店舗)、「パークンショップ」(約 160 店舗)を展開しており、駅前や住宅街などいたるところにある。スナック菓子や即席めんなど、比較的安価な日本産品が販売されている。

高級スーパーは、「デーリー系」では「オリバーズ」、「スリーシックスティー」、「マーケットプレイス」。「ワトソンズ系」では、「グルメ」、「グレイト」、「フュージョン」が展開され、日本食品をはじめとした世界各地の高級食材が揃う。

日本食材を多く取り扱うスーパーとしては、繁華街を中心に展開する「シティスーパー」、店名が日本語の「やったー」に由来する「YATA」、もともとは日本資本であった「SOGO」、「アピタ」、「ユニー」などがある。

日系スーパーとしては、1985 年に設立した老舗の「イオン」、2019 年７月に第１号店が開店し、６店舗を展開する「ドン・キホーテ」。店内では「ドンドンドン！　ドン～キ～!! ドンキッホ～テ～♪」の曲が流れ、日本産品が多いことと相まって、まるで日本にいるのでは、と錯覚する。香港の方々も訪日時にお土産を購入する機会が多いので知名度があり、行列ができるほどのにぎわいである。

農林水産省が毎年発表する「農林水産物・食品の輸出実績」によると、日本から香港への輸出実績は、国・地域別で 15 年連続で１位。日本産品は香港の市場に広く浸透している。一方でその商品の価値が伝わるわかりやすいストーリーを発信し、他の商品との差異化が必要になってきている。

（県香港事務所長　鈴木憲典）

【写真】日本産食品を扱うスーパーマーケットの様子